

生涯学習エキス

生きる力を育む

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で、欠くことのできないものであり、私たちは、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動が行うことができるよう、社会全体（家庭・学校・地域など）でその環境づくりを進めていく必要があります。

乳幼児期では、家庭や保育所、図書室などで本に出会い、その後、学校などで、読み聞かせや朝の一斉読書など、子どもの発達の段階を踏まえながら、読書活動を継続し、読書習慣を定着させることができます。○乳幼児期：本に出会う○小学生期：本に親しむ○中学生期：本から学ぶ○高校生期：本と生きる

絵本が子どもの心を豊かに

絵本が子どもの心を豊かに育むのは、ひとつには「親子の良い関係が、絵本によつて生まれるから」です。子どもが「読んで」と絵本を持つてきても、忙しいから「あとでね」つづ



初の試み！ 自治センター図書室まつり

十一月二十八日（土）、読み聞かせグループ「ぼこ・あ・ぼこ」と「このゆびとまれ」の協力をいただき、「自治センター図書室まつり」を開催しました。これは、子どもが読書に対する興味や関心を高め、本に出会い、本に親しむ機会として、初めて行われたものです。

てことはありませんか？「絵本を読む」ためには、子どものために心と体を空け、子どもに向き合わなければなりません。それだけで、子どもに深い愛情を注ぐ行為なのです。

図書室まつりでは、絵本の読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター、工作会が行われ、特にパネルシアターは、初めて見る子どもがたくさんいました。今年も開催したいと考えていますので、子どもだけでなく親子で参加していただきたいと思います。



また、当日は、北海道日本ハムファイターズの「読書男子がオススメするこの一冊」と「イクメン選手によるこの一冊」の展示が行われました。この展示は、しばらくの間、行わっています。借りることもできますので、ぜひ、自治センター図書室へ足を運んでみてください。

「書物のない家庭は、窓のない家のようなものです。なぜなら、本というものは、それを通して、子どもが、知識と経験のより広い世界をぞき見ることのできるもつとも重要な手段だからです。」



最後に、イギリスの児童図書館員で、児童図書館や児童文学の発展に尽力された、アイリーン・コルウェル氏の言葉を紹介します。

